

# 杉野元事務局長、旭日単光章受章 勲章受章者第二号

Former Secretary General conferred the Order of the Rising Sun, Silver Rays.

2024年12月18日、石川浩司大使は、大使公邸において、杉野一夫・元シンガポール日本人会事務局長の旭日単光章受章に対する表彰式を行いました。

杉野氏は、シンガポールの在留邦人コミュニティの発展や日本とシンガポールの間の友好促進に大きな貢献をされたことにより、今回の受章が認められたものです。

石川大使はスピーチの中で、杉野氏のこれまでの活動は、在留邦人の生活環境改善や日本とシンガポールの相互理解に大きく貢献するものであり、受章に相応しいものであると述べました。

今回の受章は2024年11月3日に発令され、杉野氏は11月18日、外務省において行われた伝達式に出席、その後、天皇陛下に拝謁されました。

On 18 December, Ambassador Ishikawa Hiroshi hosted a ceremony at his residence to honour Mr Sugino Kazuo, former Secretary General of the Japanese Association of Singapore, with the Order of the Rising Sun, Silver Rays.

This award recognised Mr Sugino's significant contributions to the Japanese community in Singapore and his efforts to strengthen the friendship between Japan and Singapore.

In his speech, Ambassador Ishikawa highlighted Mr Sugino's dedication to improving the living environment for Japanese residents in Singapore and fostering mutual understanding between two countries, praising Mr Sugino as a well-deserving recipient of this prestigious decoration.

The award was officially announced on 3 November, and Mr Sugino attended the conferment ceremony held at the Ministry of Foreign Affairs in Japan on 18 November, followed by an audience with His Majesty the Emperor.

(シンガポール日本国大使館ホームページより)



(左から)杉野一夫さん、石川浩司大使

## 受章者の略歴

1947年5月18日生まれ。神奈川県出身。

1972年シンガポールに渡り、南洋大学にて3年間就学。(社団法人)在外企業協会シンガポール相談所に勤務し、1984年シンガポール日本人会に事務局次長として就職し、1987年事務局長就任、2014年事務局長退任、特命顧問就任、日本人会100年史編纂に従事、2017年特命顧問退任。日本入学校登録管財人書記兼運営理事会理事(1987～2014)、日本語補習授業校運営委員会委員(1995～2014)、裏千家淡交会シンガポール協会相談役(1991～)、シンガポール国家防犯評議会(National Crime Prevention Council)評議員(2004～2016)、National Integration Working Group for Community委員(2011～2015)、Singapore Turf Club理事(2015～2019)

1991年、日本人会は第2日本人学校(チャンギ校)の建設を決めた。福田さんは1979年に帰国されていた。叔父は既に病死していた。日本人学校運営理事会の指示の下で、筆者が土地手当ての交渉に当たることになった。福田さんの代役を筆者が引き受けた。

太平洋戦争が始まると、シンガポールの在留邦人はインドに抑留された。1942年2月日本軍がシンガポールを占領すると、福田さんはインドからシンガポールに戻り、昭南特別市の通訳、繊維配給監督官、日本人居留民団長などの任務に就いた。福田さんの地元での豊富な経験は貴重だった。

敗戦後、在留邦人はジュロンにキャンプ集結所を設け、7千人がここで帰国船を待った。福田氏は地元の知人の協力を得て、米、塩、砂糖など食料確保に奔走した。1946年帰還船に乗せられ、身一つで日本に戻った。帰国した後も、福田氏はシンガポールへの復帰、越後屋の再開を願って、シンガポールの友人と連絡を取り合っ、帰還の機会を窺っていた。

1954年友人の弁護士から吉報が届くと、11月シンガポールに戻った。1955年9月越後屋を立ち上げた。戦後日本企業の再開第一号だった。

1957年日本人会の再発足には福田さんは中心的な役割を果たし、理事に就任した。日本人墓地の管財人を務め、墓地の管理維持に尽力した。1969年には敵産処分で接収されていた墓地の返還を裁判所に陳情し、日本人会の手に戻した。その後日本人会の名誉会員に招へいされた。1979年6月日本に帰国。シンガポール滞在期間は戦前、戦後を合わせると55年に及ぶ。

1974年5月、日本人会、日本人学校の発展に貢献したことが評価され、日本国から勲章(勲5等瑞宝章)が授与された。1986年3月死去、享年83。

(杉野一夫記)

## 余談 勲章受章者第一号、福田庫八氏

1975年、念願の日本人学校新校舎がクレメンティ地区に建設された。シンガポール政府(Singapore Land Office=シンガポール国土管理局)に土地斡旋を掛け合ったのは福田庫八さんだった。

福田庫八さんがシンガポールにやってきたきっかけは、福田さん一家と親しかった呉服商「越後屋」の主人、高橋忠平さんから「おじさんの外国の店で働いてみないか」という誘いだった。越後屋はミドルロードで手広く呉服屋を営んでいた。庫八少年は日本の小学校を卒業したばかりで、当時13歳だった。大正5年(1916年)7月、庫八少年は高橋さんに連れられてシンガポールの土を踏んだ。

ミドルロードにあった越後屋で丁稚奉公する傍ら、半日はシンガポールの学校に通わせてもらった。名門アングロ・チャイニーズ・スクールに入学した。英語が全く判らなかったのも、また1年生から始めた。福田さんは「2つの大学を出た話はよく聞か、2つの小学校を出たのは私ぐらいのものだ」と冗談を言っていた。日本人会に残されている福田さんのノートを見ると、英語と日本語が入り混じって記載されている。シンガポール政府への英語の手紙も自分で書いて、タイプしていた。

ある日、筆者(杉野)は、叔父(義理の母の妹の夫)にMr Fukudaを知っているかと聞かれた。旧知の間柄だと答えると、日本人学校(クレメンティ校)の用地の件で、度々福田さんと会っていると言う。叔父はシンガポール国土管理局の高官だった。日本人学校用地をシンガポール政府から手当てしてもらうに際して、福田さんは私の叔父と交渉していた。クレメンティ校の敷地は福田さんがシンガポール土地局と交渉し、供与されたものである。